

部会報告

初期診断部会

特にご報告することはありませんが、初期診断リストをもっと分類、整理しやすいように改定いたしました。また各部署の意識調査のアンケートを実施し、今後の活動をより円滑かつ充実させていくための指針にしたいと思っております。実際の活動よりも部会等にかかわる時間の方がずっと長いのが現状です。依頼物件が少ないので、なるべく多くの部員に実際の活動に参加して頂くため、皆でいろいろ考え中です。製作部会への伝達手段である図作成方法の勉強会も企画中です。(記 畑 俊治)

製作部会

(財)車両競技公益資金記念財団の助成金による木工道具購入について検討。木工道具について、この度申し込み助成金の交付決定の知がありました。プロ用大工道具セット、発電機、女性にもやさしいインパクトドライバ等。また、コンクリート工事用具等、住宅改修から各種

木工教室まで、幅広く活動できる器材が揃います。多機能工の養成や会員の活発な活動が期待されます。(後藤・新開)

業者委託調整部会 方針 初期診断と連携し、早く・早く・安全に。目的 福祉と住環境を考える会の設立主旨、活動の目的にそって高齢者や障害者が当たり前に暮らせる社会の実現に寄与する為に住宅改造を行う。ユーザー個々にとつて適切な工夫を加えた初期診断チームの結を

持って、物造りを専門に、ユーザーの快適な生活環境を確保する事を目的により早く、そして早く、安全に実施する。(記 八木 道夫)

パソコン部会

パソコン部会は事例や会員情報、その他のデータを一段と活性化することを指して、先ずはそれぞれの書式作成に取り組んでいます。会員情報については、かねてよりの会員カード書式をさらに吟味して内容の充実を急いでいます。

難しいのは事例記録のフォーマットですが、初期診断から製作、事後検証に至る一連の記録をより効率的に、またより有機的に把握し、今後の活用に戻すべく、目下その雛形を初期診断部会、製作部会等に照会し吟味を進めているところです。図や真の取り込みにも目処が立ち、やがてすばらしい書式が完成する事とご期待下さい。(記 中北 清)

経理部会

8月11日(水)参加者 岩本(社協)・後藤(美)・光川

①OCRの伝票で出来た総勘定元帳・損益計算書・貸借対照表を4月分のみ検討した。②会員と会費のチェックをした。おいしいケーキと紅茶で、のどと胃にリフレッシュタイムを送った。(記 光川 幸子)

生活用品部会

7月21日(水)、福祉住環境コーディネーター検定試験の講習を前に、杉浦氏を講師に招き、前回の試験



検定試験の模擬風景

問題をピックアップしてミニ模擬を行いました。十数名の参加があり、全く初めてでも努力すれば出来ると思える内容でした。9月から10月まで毎週水曜日全8回講習会を開催することに決定しました。初期診断部会メンバーを始め、会員、会員外を問わず、11月の試験に向けて頑張ってください。(記 中北 清)

8月4日(水)、臨時部会を開きました。皆様に検定試験の案内が届いていると思えますが、我が会にはまだ届いていない人はいませんか。是非この機会にチャレンジして下さい。(記 光川 幸子)

今林の里建設支援部会

5月5日の第1回部会では建設現場を視察した後、大和川園に於いてこの部会では何ができるのか、何が求められているのかが議論されました。その結、先ずはこの施設がどのような方針とプログラムで運営されるのかを明確にする事が先決であるとの結論を得、その後大和川園内部での精力的な討議の集積がなされて、その概要が第2回部会(6月19日)に報告されたのです。そんな経緯を経て、ふくてつくとして取り組めるテーマは次第に明らかに

なつて来ました。入所者を第一に掲げて、それぞれのケースに応じた有期限プログラムによる社会復帰を目指そうという、おそらくは画期的な生活施設となるであろう本プロジェクトについての、介護記録に関するコンピュータソフト開発の問題や、入居者の人権擁護といった難解なテーマとともに、手作りの陶板タイル製作といった楽しい課題も浮上してきました。コンピュータソフトの開発については、ぼくあぼこのメンバーにも協力を仰いでいます。

入所者の人権擁護はまた一方で、本人や家族の自覚や責任を問う事でもありません。施設と本人・家族が対等の立場で結ぶ「契約」という概念が育ちつつあります。

7月17日の第4回部会以降、建設現場所長の中釜氏(戸田建設)にも参加

していただき、建設会社としても積極的に協力するとの発言を得ました。現場は8月2日に2階の躯体を打設し、盆明けから3階部分の鉄筋や型枠の組立に入っています。秋以降、内外装の材料や色、計画の詰めも急がれます。セキュリティの構築や備品の選定など、難しく責任重い課題が山積しています。ふくてつくの仕事もいよいよ佳境に入りそうです。

8月22日、第5回部会では、ついに陶板タイル製作の方向性が確認されました。一つは、敷地入口の壁に、障害者の絵を元に約100枚の絵付けタイルによる壁画を作つて飾ろうというもので、これは西念陶器研究所にその製作を依頼します。

一つ目は、エントランスホール正の壁に約200枚の陶板によるレリーフをボランティア参加で造ろうというもので、舞洲の陶芸館に協力を求めて一市民や障害者にも参加を呼びかける事になりました。詳細は9月の例会で討議の上、直ちに参加者募集を行い、本年中には製作を終えたいと考えています。(記 中北 清)

協力しあうことが大切 無理をせずに支援センターの利用を



7月定例学習会 平成11年7月3日(土) 藤原ミサ子氏 高槻ともしび苑在宅介護支援センター 保健婦

在宅介護支援センター：よく耳にしますが、具体的にどのようなことをするところか、あまり知りませんでした。今回の学習会は、藤原氏の流暢な口調、個人的な経験等も盛り込まれ、とても興味深く、分かりやすい内容でした。前半はドイツと北欧へ行った時のスライドを見ながらのお話でした。ドイツの老人ホームでは家具を持ち込み、ペットを飼ったりと、今までの環境をなるべく変えずに生活できるように工夫されており、部屋も大変綺麗に整えられています。

フィンランドは街中で子どもを多く見かけ、老人の姿が目につきます。一つにはいわゆる「年寄くさい」服装、姿勢、髪の色(もともと白っぽい)をした人がいないので、老人の存在を感じられなかったのではないかとのことです。日本の老人は地味ですね。華やかなおしゃべりをしてはいかががでしょうか。

後半は高槻市の在宅サービスについてお話し頂きました。在宅介護支援センターは、365日24時間あらゆる相談を無料で受け付け、福祉職、看護職の2名で運営されています。市民からの要請を受け、介護プラン・ケアプランを作成し、他の関連機関と連携を取りながら、在宅介護のネットワークを形成しています。様々なケースを見られて藤原氏が感じられていることは、協力しあっている夫婦はすばらしいということだと思います。介護は気持ちの問題が大きく、お互いに補い合え

ば困難なことも半分の苦勞で済むので、日頃から夫婦仲良くしてくださいとのことでした。また日本では「介護は家族でやるもの、お上のお金を使つては申し訳ない」という考えがあり、家族が無理をしようとするので、どうか倒れる前に支援センターを利用してほしいとのことです。夜中に呼び出されることもあり、家庭と仕事との両立の大変さといった苦勞話もされ、とても充実したお話でした。(記 和泉 秀子)

ボランティア募集 あなたも陶芸家

知的障害者の施設を手作りの陶板レリーフで飾りませんか。 目下、大阪市東住吉区今林で建設中の「今林の里」は、知的障害者の更生施設で、来年2月末の完成を目指しています。5名の障害者がここで暮らし、また5名の在宅障害者が所する予定の施設です。 これまでの、ややもすると閉鎖的な施設イメージを払拭し、社会に開かれた生

活環境の醸造を模索していきます。その玄関ホールに、市民の力で手作りの陶板レリーフを造りましょう。 テーマは「笑顔」。障害者が市民とともに、当たり前のように生活できる街づくりの象徴です。

舞洲の陶芸館の協力を得て、8cm角のタイルを一枚一枚手作りで造ります。材料の粘土や釜入れの費用が若干かかります(一枚二千円の予定)が、陶芸を楽しむながら市民の力で障害者の生活に少しでも潤いを与え、そうして一生懸命に生きて行くこととする彼らを暖かく励まして下さいますので、どなたでも参加できます。ご希望の方は、準備の都合がありますので

で、9月30日までに下記まで登録して下さい。実際に製作するのは、2月以降年末までの間になる予定です。ふるってご応募下さい。

問い合わせと登録 大阪市ボランティア情報センター内 「福祉と住環境を考える会」 担当 岩本 祐子 電話 06-6765-4041 FAX 06-6765-5618 (記 中北 清)

ほたる草

発行 大阪市天王寺区東高津町12-10 大阪市ボランティア情報センター内 福祉と住環境を考える会「ふくてつく」 発行責任者 代表：杉浦史郎 TEL 06-6765-4041 「ふくてつく」は 福祉+テクノロジーの造語です

ふくちやん 菽野光 介護認定? An advertisement for 'Fukuchyan' featuring a cartoon character and a dog, with text about nursing certification.

事例報告

A ニード
 B 日常生活と家庭状況
 C 解決方法
 D 改善後の状況と考察

会員が大奮闘

都島区Hさん 74歳 女性
 A 現在木造長屋の2階で生活しているが2階に上がるのが大変なので、倉庫のように1階に生活できるように改修してほしい



P・T(理学療法士)に相談があり、依頼が入った。
 C 床がかなり弱くなつており補強する。掃き出しのサッシの取り付け他。
 (記 岩本 祐子)

D 1階の床は一部腐つており、奥の部屋の屋根と壁はすき間だらけで、改修には少なく見積つても50万円近くかかりそうです。生活保護対象の家屋保障その他の助成金、18万1000円だけではとても足りません。本来あのようなご家族に高齢者対象の住宅改善助成金が支払われるべきなのに、同居の次女が身体障害者で



ないため、対象にならないようです。最近、北欧では施設介護から在宅介護に向つていくというのに、やはり日本は福祉において50年遅れているみたいです。
 いろいろ思案したあげくふつてつきのメンバーで改修することになり、8月24日下記メンバーが集会いたしました。後藤・新開(英・八木(道)・有馬・勝田・岩本・岩元・大工さん(後藤氏の仕事仲間)・畑

午前10時から午後6時30分、ほこりと木くずにまみれ蒸し風呂状態の中での作業が続きました。プロの大工さんに参加していただいたおかげもあり、工事は段取り良くスムーズに進みました。製作部のメンバーは少しきこちないところもあり



りましたが、その要領の良ささと器用さと熱心さには感心いたしました。
 女性軍も茶ダンスの中の整理や残材の後片付け等に奮闘されました。
 とても暑かったです。疲れしました。昼休みのビールが最高でした。
 奥の間の床組みの一部はやはり腐っていました。腐っているというより土台がないに等しい状態でしたが、さ

生活の自立へ向けて

東住吉区Nさん 68歳男性
 中部障害開放センター(障害者 所作業所)のI氏より、当センターのN氏(車イス生活で介護必要)の家探しで協力して欲しいと依頼があり、東住吉区内の一軒家やマンションなど2、3ヶ所探索し、当センター近くにある民間マンションの7階に決定した。

一軒家は障害者対応ではなく風呂・便所の改造費が3百万程度かかるので取りやめ、公団のマンションは新築で家賃が安いのだが、センターや病院等への交通の不便さがネックとなり取りやめた。民間マンションは、

すがプロの大工さんです。あつという間に床組が出来てあがりました。
 プロの技術と人海戦術で台所の床補修以外の全ての工事を1日で終わりましたことをここに報告申し上げます。
 工事に参加して頂いた有志の皆様、本当にご苦労さまでした。
 (記 畑 俊治)

生活の自立へ向けて

東住吉区Nさん 68歳男性
 中部障害開放センター(障害者 所作業所)のI氏より、当センターのN氏(車イス生活で介護必要)の家探しで協力して欲しいと依頼があり、東住吉区内の一軒家やマンションなど2、3ヶ所探索し、当センター近くにある民間マンションの7階に決定した。

現在マンションの浴室は、内寸1200×1600が標準で、介護浴が必要な彼

定例会のお知らせ

日時	10月 10月2日(土) 午後1時~4時
場所	(現地集合) コープリビング甲南内
内容	「はーとらんど」
日時	11月 11月6日(土) 午後1時30分~4時
場所	(JR摂津本山 南出口より徒歩7分 国道2号線沿い)
内容	見学他
内容	調整中

手作り料理でおもてなし 津山福祉住宅研究会との交流会

7月25日(日)1時から、津山福祉住宅研究会との交流会がATCで行われました。先方は15名、マイクボックスで3時間かけて予定り到着されました。当初心配されていたふくつく側の参加者も当日には26名集



見ているのが大変で、お風呂展までは見られませんでした。その後、無料で借りられたという部屋で、手作りの昼食会が開かれました。沢山の料理が用意されていて、佐藤宣三

99地球市民フェスティバル 木工教室

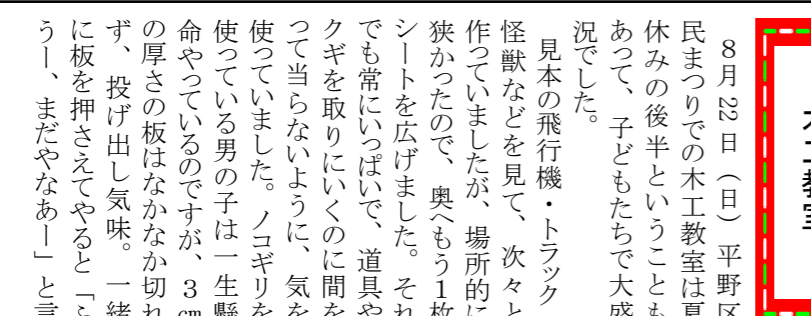
8月8日(日) JR大阪駅北側空地で大阪NPOセンター主催の99地球市民フェスティバルが開かれ、ふくつくも木工教室に参加した。
 当日朝8時ごろ、機器の搬入と同時にテントの設置を始めた。9時には3張の



ピンク色のテントが組み上がり、ボランティアセンター名の入ったTシャツを着用し、木工教室の準備を整えて来場者待機。会場は企業・団体・個人のブースがあり、出品内容も様々だが、無料の木工教室は特色があった。
 夏の日差しが強い場所のためか、来場者の入場は少なかつたが、親子づれが来て工作を始める。会員も横についてアドバイスをして作品

平野区民まつり 木工教室

8月23日(日) 平野区民まつりでの木工教室は夏休みの後半ということもあって、子どもたちで大盛況でした。
 見本の飛行機・トラック・怪獣などを見て、次々と作っていました。場所的に狭かつたので、奥へもう1枚シートを広げました。それでも常にいっぱい、道具やクギを取りにくいのに間をつて当らないように、気を使っていました。ノコギリを使っている男の子は一生懸命やつているのですが、3cmの厚さの板はなかなか切れず、投げ出し気味。一緒に板を押さえてやると「ふうー、まだやなあー」と言



いながらもあと半分、あと3分の1と無事終了。本人は切れて嬉しいのとホツとしたのと両方の顔をしていました。また、不安定な怪獣に両脇に補強の木を付けるというアドバイスももらい、どつしりと安定し、嬉しそうなお子。きつと作品展に出す子も多いのではと思われました。
 最後に素晴らしい手作り看板を掛けてくださった区社協の皆さん、いろいろお世話になりました。
 (記 岩元 百合子)

